

# 1. 評価報告概要表

評価確定日 平成19年10月30日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1576400657
法人名	社会福祉法人 村上岩船福祉会
事業所名	認知症高齢者グループホーム まつかぜ
所在地	新潟県岩船郡神林村北新保683番地1 (電話) 0254-66-8882

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニソンプラザ3階
訪問調査日	平成 19年 9月 6日

【情報提供票より】 19年 8月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9人
職員数	7人 常勤 6人、非常勤 1人、常勤換算 6.3人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	平屋 建ての 1階 部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日あたり	780 円	

### (4) 利用者の概要 ( 19年 8月現在)

利用者人数	9名	男性 1名	女性 8名
要介護1	2名	要介護2	6名
要介護3	1名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 85歳	最低 76歳	最高 90歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	村上総合病院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

四季折々の移り変わりを眺められる遠方の山々、季節の花が咲く公園、白鳥が飛来する池、山菜が豊富な松林など自然豊かな場所に特別養護老人ホームと隣接して建てられている。ホームは家庭的な外観であり、玄関周囲も季節の花や収穫された野菜などが置かれて誰もが気軽に訪れられる雰囲気である。ホーム内には職員の明るい声と利用者の笑顔があり、家庭的な関係が築かれていると感じられる。職員にとってもホームはもう一つの「家」、利用者は「家族」であり、休日でもホームに来たり、利用者の暖かい言葉に常に職員が感謝を表している。家族の面会も多く、面会に来られた家族は自然に他の利用者とも一緒に過ごして行かれる。地域密着型サービスとしての役割を職員が認識しており、積極的に地域との関わりにも取り組んでいる。地域の方々からも野菜や赤飯などの差し入れがあり、地域行事への招待も受け地域に積極的に出向いている。管理者・職員共にグループホームの意義と役割の実践に向けてやりがいを持ち、日常的に意見を出し合いながらサービスの質の向上に努力している。今後は利用者のフィールドとしてより地域に出向き、認知症ケアの専門性を活かした地域貢献を期待できる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価結果を受け止め、前向きに改善に取り組んだ。「介護計画」には、身体的な課題のみでなく、利用者がどのように暮らしたいか具体的な目標を掲げ、その実現に向けて支援している。居室の前にあるベンチの活用については改善の工夫は特にないが、利用者同士や家族と思い思いに過ごせるスペースになっている。第三者委員については玄関に明示が行われている。広報誌の回覧と共に、地域の方々に行事案内や参加を呼びかけている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員全員で取り組み、一つひとつの項目を細かくチェックすることで日常のケアのあり方や、統一したケアが実践されているかを立ち返る機会としている。今後の取り組みについても方向性や具体策を示しながら、サービスの質の向上に努力する姿勢が十分に伺える。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、ホームの状況報告、実施しているサービス、方針などを地域住民の方に理解して頂く重要なパイプ役になっている。地域代表の方から、地域行事の案内やホームの地域との関わり方等を助言いただく機会にもなっている。また、地域包括センターの職員がメンバーになっており、認知症高齢者のケアについて地域全体でその専門性を活かして一緒に取り組んでいくことが推進されている。避難訓練や看取りに対する取り組みについても討議されている。外部評価の結果についても討議を図り、結果を踏まえた改善にともに取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族には定期的に利用者の暮らしぶりや健康状態を報告し、利用者一人ひとりを家族と共に支援している。家族には機会があることに意見・要望等の引き出しを図っているが、現在までに苦情等は寄せられていない。日常的に面会も多く、職員と家族がいつでも気軽に話ができる関係ができています。今後は、家族が一堂に会するクリスマス会などの機会を、職員が席を外した中で家族同士が率直な意見を交換してホームに伝える機会として活用してはどうか。家族の意見・要望がよりサービスの質の向上につながることを今後も伝えていってほしい。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>村の文化祭や学校行事への参加の他に、日常的に地域住民の方との交流が図られている。隣接施設の夏祭りには、一般住民の方と一緒に浴衣を着て参加し、交流の機会を持つことで地域の方との顔なじみの関係が継続できている。また、畑作りには地域の方がボランティアとして参加され、一緒に収穫を喜んでいる。避難訓練には住民の方が参加を申し出るなど、利用者が地域の中で暮らしている支援を地域ぐるみで行なっていることが伺える。今後は自治会への参加と共に、ホーム側から地域住民としての役割を担っていけるように積極的に向かい合うことが期待される。</p>

## 2. 評価報告書

(   部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員が理解しており、今までの理念を見直し、家庭的な暮らしの中で地域との関わりを継続しながら、楽しさと尊厳のある生活の実現に向けて具体的な理念を確立している。さらに、利用者が考えた「みんなで仲良く暮らしたい。その人らしく暮らしたい」というモットーを、ホームが大切にしていることとしてホーム内に掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全体会議での確認はもちろん、日々のケアの中で日常的に話しあったり、関わりを振り返りながら、具体的なケアについて管理者と職員が統一した意識を持って取り組んでいる。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	利用者の笑顔があふれる写真や行事の様子などが掲載されたホーム便り「まつぼっくり」を定期発刊し、地域住民の方々に回覧していただいている。		理念は分かりやすく具体化されたものであり、ホームでも実現に向けて日々取り組んでいる。今後は、ホームのパンフレットや契約書、ホーム便り等へも記載を行い、よりホームの理念や役割を家族、地域に伝えていく取り組みが期待される。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	集落から離れたところに位置しているために自治会への加入はまだだが、村の文化祭や学校の文化祭に出向いたり、新築住宅の餅拾いに招待を受けて伺ったりと交流が図られている。また、近所の方から野菜・魚・衣類などの差し入れをしてもらうこともある。ホームを訪れた方は気軽にお茶を飲んで行かれる。		今後は地域住民としての役割を担うために、老人会の草取りや掃除などの地域行事にもより積極的に参加することを期待したい。
3. 理念を实践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は評価を日々のケアを立ち返る良い機会と捉え、全員で自己評価を行っている。また、外部評価結果を、利用者や家族へ、また、運営推進会議で公表し、サービスの質の向上に活用している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者、家族、地域住民、市町村担当者で構成されており、ホームの理念や役割、サービスの実際について報告している。また、家族から看取りについての意見が出されたり、地域から行事案内や地域への関わり方などの提案がなされており、地域に欠かせない役割をもつホームとなるように活発に話し合っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者が年度に代わったばかりであるが、ホームから積極的に情報提供を行ない、理解を深めてもらうよう働きかけている。市町村担当者からは、今後、ホームと協力してともにサービスの質の向上に取り組んでいく意向が示されている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員は共に高齢者虐待関連法について理解をしており、日々ミーティング等でも確認している。また、発見した場合の対応方法においても周知が図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回発行のおたよりの他、写真や手紙で暮らしぶりやエピソードを伝えている。また、月に1回は定期受診の為に家族が面会に来られるので、健康状態や金銭管理の報告を行っている。やむを得ず職員の異動がある時は、利用者・家族に理解をいただけるように十分話し合う期間を確保している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に相談窓口の利用の方法を説明し、日常の面会時や家族が参加するクリスマス会等で意見を聞きだせるように働きかけている。現在までに苦情は寄せられていないが、言いやすい雰囲気づくりに取り組んでおり、また、苦情が出た場合の対応体制についても職員に周知が図られ、速やかに対応できるようにしている。		玄関には内部の相談受付窓口と第三者委員については明示してあるが、公的な窓口についても明示してほしい。また、契約書についてもホームの受付窓口のみ記載されているので、公的機関の記載が望ましい。より言いやすい雰囲気づくりをすすめるとともに、アンケート調査などにも取り組んではどうか。
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議で常に活発な意見交換を行なっている。会議の結果や意見等については、管理者から運営者に伝えられている。また、職員間や管理者の間では日頃から密にコミュニケーションをとる関係が確立されており、その都度話し合いながら、理念の実践につながるケアに取り組んでいる。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームは1ユニットであるが、さらに居室を3つのグループに分け、職員を担当制にする事で、より顔馴染みの職員によるケアができるよう努めている。馴染みの関係づくりが大切であることを職員全員が認識しており、異動等が極力行なわれないよう法人本部に働きかけている。やむを得ず異動がある場合は、利用者・家族に説明を行い、しっかり引き継ぎを行うことで利用者にダメージがないようにしている。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しも適宜行われている	非常時対応、緊急時対応、無断外出対応、災害時対応、感染症対応マニュアルなどが整備されており、夜勤帯には常に身近に置きいつでも確認できる体制にしている。また、定期的に見直しも行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修、隣接施設での研修、段階に応じた外部研修への参加を出来る限り行っている。研修に参加した職員は発表者となって伝達研修を行い、全職員が情報の共有を図っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	村上・岩船管内の他のグループホームとの交流や相互訪問を通して、日頃悩んでいる事や、知りたい情報の交換を行っている。また、近隣市町村のホームや知人を通して電話等でも積極的に情報を得て、サービスの向上に取り組んでいる。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員間のコミュニケーションが密に図られ、互いに話をすることでストレスの解消が図られている。職員間で解消できないことは、管理者に聞いてもらうこともあるが、それ以前にお互いを理解しているために、不調の時は事前に声をかけあい配慮しあう関係が出来ている。法人内の懇親会や、職員同士でお茶を飲みに行くなどの機会も作られている。		
<b>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居にあたっては、事前訪問の他に見学に来ていただいたり、他の利用者の方と一緒に過ごしていただく時間を設けて居心地の良い場所としての認識を持ってもらえるように取り組んでいる。また、入居当初で不安が大きいときは、家族の方から泊まりに来て頂いて、徐々に安心して過ごせる環境づくりの工夫を行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が生活歴の中で培ってきた得意な分野や、昔の慣わし、行事、食事作りなど、日常生活の中で職員が入居者から学ぶ機会があり、職員は感謝を言葉にして伝えている。畑作りや草取りなどは常に利用者主導で行なっている。また、誕生日や家族の出来事も一緒に祝ったり、喜びや悲しみなどの思いを共有している。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホームに入居するに至った経緯や家族の今までの思いを受け止め、また、ホームでの利用者の様子や、職員の思いを家族に伝えることで、利用者自身がどのような生活を望んでいるのかを理解し、共に支えていこうとする関係が構築されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々利用者とゆっくり話しをする機会を持つように心掛けている。話が上手く出来ない利用者には毎日の暮らしの中での感情の表出や、表情からその思いを把握できるように努力している。「出来ない」と決めつけるのではなく、家族からの情報や生活歴の把握、利用者へのアプローチを通して、気づけるように取り組んでいる。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅時の担当ケアマネージャーや家族からの情報を得て、一人ひとりの今までの生活や嬉しい出来事、悲しい出来事の把握を行っている。家族等からの情報収集が上手く出来ない時は、利用者への関わりの中から把握できるように努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者・家族の暮らしたい意向や意見を反映し、担当職員と計画作成者によって作成している。作成前には、全職員が日々の暮らしの中からの課題や気付きを出し合い、十分に検討している。作成した介護計画は、利用者・家族・職員に周知され、日々課題に向けてケアの実践がされている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリングと3ヶ月に1回の介護計画の見直しを行っている。状態変化があったときは、その都度見直しを行い、状態に即した介護計画の作成を行っている。見直しの際は、本人・家族からの意見を聞き取り、全職員での話し合いを元に新たな介護計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な対応</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通所や短期入所への取り組みはまだ実施していないが、利用者と共に暮らして行く馴染みの関係づくりや、面会簿を廃止しての気軽な家族の面会と外出支援、家族と一緒に過ごせる機能性を活かして、家族も含めた形でこれまでの生活の継続が支援できている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族が希望するかかりつけ医が確保されており、毎月1回は家族の同行で受診し、年に1回の健康診断も実施している。主治医、家族、ホームで健康管理の情報を共有し、疾病の予防や悪化防止に努めている。かかりつけ医とは24時間気軽に相談できる関係ができています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応については、ホームの方針が明確に示されており、入居時に本人・家族にも説明し同意を得ている。入居後も家族、かかりつけ医と繰り返し終末期の過ごし方については話し合いを行い共有している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りを尊重した言葉掛けや対応が行われているか、職員同士で観察を行っており、調査時も全ての職員が穏やかで、優しい言葉で接していた。記録等の情報は個人情報保護法の理解を図り、マニュアルに沿って管理している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよそその1日の流れはあるものの、利用者のその日の状態や気分に応じて出来るだけ個別に対応できるように取り組んでいる。朝の天気によって外出をしたり、買い物に出かけたり、本人の希望を聞きながら本人主体で過ごせるように工夫している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫した野菜をふんだんに取り入れたり、食べたいものを聞きだして献立に反映すると共に、利用者それぞれが得意分野で食事作りに関わっている。食事の際は、利用者・職員が全員でテーブルを囲み、テレビを消して会話を楽しみながら賑やかに食事をとっており、家族団らんの雰囲気を感じられる。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、その人に合わせた時間誘導や排泄用品の使用を行う事で失敗をなくし、パット等の使用も減らすことが出来ている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日おきの入浴ではあるが、本人が希望すれば毎日でも入浴ができ、時間帯も出来るだけ本人の希望を受け入れている。入浴の長さも本人の好みに合わせ、ゆっくり楽しむことが出来るように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握することでできそうなこと・得意なことを引き出し、役割と生きがいを持って暮らせるよう支援しており、ゴミ出しを自分の仕事として行なう、来客にお茶を出す、椅子脚に手編みの傷防止カバーをかける、壁面に職員と協同で飾りつけを行う等の活動につながっている。また、地域性から畑仕事に従事していた方が多く、野菜づくりの際の表情は生き生きとしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームで車の保有をしているので、時期になれば花見や紅葉狩りなどに全員でドライブに出掛けている。近くには公園や白鳥の帰来する池があり天気や利用者の状態をみながら、弁当持参で出かけている。ホーム脇に遊歩道があり調度良い散歩コースとなっており、地域の方との触れあいもある。食材の買出しや、本人の希望に応じた買い物や外食も支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、運営者、管理者、職員全員が正しく理解しており身体拘束のないケアを実践している。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けないケアの実践に向けて、職員全員が利用者一人ひとりの行動パターンを把握して対応している。日中は玄関の鍵をかけておらず、来客を知らせるチャイムが設置してあるが、耳障りではない。最近では、外出する前に利用者が職員にその旨申し出るなど家族的な関係が出来ている。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒、窒息などの事故が発生した場合の対応マニュアルが整備されている。火災の際の訓練も消防署の協力で年に2回実施している。事故が起きた場合は事故報告書・ヒヤリハット報告書を作成して、事故の経緯や対策について職員間で話し合い事故防止に取り組んでいる。		事故報告書は発生時の状況と職員間で話しあった対応策についての記載に留まっている。対応策を実施しての評価をする事が再発防止に繋がるので、今後取り組んでほしい。同様の事故を繰り返す入居者に対しては個別のマニュアルを作成してはどうか。
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	急変時や事故発生時の対応については、全職員が救急法を学んでいる。また、隣接施設の看護師にいつでも協力が得られること、講習を受ける機会を持つことで対応方法の確認ができています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	年に2回の避難訓練を行い、避難方法や手順を全職員が習得している。運営推進会議等の機会に協力を要請するなど地域への働きかけもしている。訓練には地域住民自らが参加を申し出て協力してくれている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立はホームで作成しているが、月末に隣接施設の管理栄養士から、カロリー計算や栄養バランスについての指導を受けている。食事や水分については一人ひとりの状態に応じて細やかに把握をしている。おやつでカルシウムの補給を工夫し、便秘時には寒天の摂取などを心掛けている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関周囲には季節の花が植えてあり、誰でも気軽に訪ねやすい雰囲気である。玄関脇のウッドデッキには収穫された野菜が自然に置かれてあり、玄関内にも季節の花が活けられ家庭的な雰囲気である。建物は木のぬくもりが感じられ、高い天井や大きな窓があり開放的で、採光も良く、空気のよども感じられない。飾りつけも無駄なものがなく家具も家庭的である。三つに分けられている居室のグループごとに、気の合う仲間と過ごすことの出来る縁台や季節を感じるコーナーが設置されている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ほとんどの利用者は、食堂やリビングのソファで他の入居者と共に終日過ごしているが、居室は一人ひとりの個性に合わせて本人の望む居室づくりが行われている。ベットと布団の選択も自由であり、持参品や飾りつけもその人の希望に応じて用意され、一人ひとりが居心地の良い居室となっている。家族の面会も多く、家族と相談しながら居心地良く過ごせる居室づくりをしている利用者もおられる。</p>		